

令和4年12月23日

2学期終業式あいさつ

- 皆さん、おはようございます。校長の都丸です。
- 本日で2学期が終了となります。また、あと1週間と少力で今年も終わりになります。今年は皆さんにとってどのような年だったのでしょうか。
- 世の中では、新型コロナウイルス感染症をはじめ、ロシアのウクライナ侵攻、安倍元首相銃撃、東京オリンピックの汚職やエリザベス女王崩御など、何となく重苦しく感じるが多かったように感じます。
- しかし、そのような中において、夏の甲子園野球では東北勢の初優勝、ボクシングの井上尚弥選手がバンタム級日本人初の4団体制覇、それになんといってもサッカーFIFAワールドカップでの日本代表選手の活躍は、とても感動しました。(全てスポーツですが…)
- 決勝トーナメントでは惜しくも初のベスト8とはなりませんでしたが、予選リーグでは、ドイツやスペインに勝利するなど、日本中が歓喜し、代表選手のがんばりが重苦しい雰囲気をはしょくして、私たちに元気にしてくれたのではないのでしょうか。
- しかし、それ以上に私が一番嬉しく、誇らしく感じたのは、日本選手やサポーターの試合後の振る舞いです。サポーターの方々は、毎回のよう試合後に会場のごみ拾いをして帰る、選手も必ずロッカールームをきれいに掃除して整えて帰る。そうした振る舞いはホテルでも同様だったようです。
- こうした振る舞いは、やはり人への感謝や思いやりの気持ちからくることなのではないかと思ひます。
- サッカーができることに感謝し、サポートしてくれる人たちへの思いやりではないのでしょうか。決して自分一人の力ではないという思いではないのでしょうか。何ごとも自分一人で成し遂げることはできないと思ひます。
- 相模田名高校もマナー日本一を掲げ、「思いやり」の心を育んでひます。皆さんもこうした選手の立ち居振る舞いを意識してもらいたいと思ひます。
- 実は、相模田名高等学校でも、嬉しいことがありました。みなさんには初披露となりますが、本校は、キャリア教育優良校として文部科学大臣表彰をいただくことになりました。
- その内容は、地域連携事業です。地域でのあいさつ運動やラウンジ展、部活動の生徒が中心となって進めてきた田名オリンピックやキウイ収穫祭、近年では子ども食堂やボッチャ交流試合、コロナで休止となっていますが、宿題お助け隊や小学校連合運動会練習協力など、これまでみなさんはもちろんですが、先生方や卒業した先輩方が取り組んできた本校の伝統ともいえる様々

な地域連携活動がキャリア教育の優秀実践校として認められ、県教育委員会から文部科学省に推薦され、決定したものです。

- 表彰は1月となりますが、先生方と生徒諸君の取組みが評価されたことは、私にとってこの上なく嬉しく、そして感謝の気持ちでいっぱいです。みなさん、本当にありがとうございます。これからもみなさんが主体となり地域との連携を深めてもらいたいと思います。
- 最後に、来年の干支は、癸（みずのと）卯（う・うさぎ）です。
- 「癸（みずのと）」とは、生命が終わり新たな生命が成長し始めている状態を意味し、そして、「卯」は穏やかなうさぎの様子から安全、温和の意味があり、また、うさぎのように跳ねあがるところから、何かを開始するのに縁起がよい年で、希望があふれ、景気回復、好転するよい年になると言われているようです。「飛躍」、「向上」を象徴し、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われているようです。
- 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中ではありますが、来年は状況が回復し、希望の光が差し込むことになるかもしれません。
- みなさんには、是非とも来年、新たなことに挑戦してもらいたいと思います。
- 相模田名高校のキャッチフレーズは、「未来への挑戦～やる気・元気・勇気～」です。臆することなく何事にもチャレンジしていつてもらいたいと思います。
- それでは、また1月10日にみなさんと笑顔であいさつができることを楽しみにしています。よい年をお迎えください。